

たかく則男 区議会レポート

のりのり通信 2017年2月号

ご挨拶

日頃より、「たかく則男」の区政活動に対し温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、アメリカではトランプ新政権が誕生しました。2017年の世界を取り巻く国際情勢は大きく変化しております。我が国でもアメリカの影響をかなり受ける年になる可能性があります。

世田谷区においては、ふるさと納税の影響で30億程度の税収減が想定され、29年度予算は厳しい予算になる可能性があります。その中でも皆様のお声をしっかりと区政に反映し、安心安全の世田谷、福祉先進の世田谷を築いてまいります。

今後とも、ご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



1 がん対策の推進

日本人の二人に一人が、一生のうちに一度は、がんになる時代を迎えております。

近年、がんは日本人にとって「身近な病気」になっており、その予防や対策は多くの関心を集めております。世田谷区においてもがん対策は喫緊の課題であります。

世田谷区では一昨年「がん対策推進条例」を施行し、昨年、条例に基づく「がん対策推進計画」を策定しました。

昨年度から、ピロリ菌の抗体検査と萎縮性胃炎の有無を調べるペプシノゲン検査を組み合わせた **ABC 検診**、いわゆる **ハイリスク検診** を予防事業として導入しました。

今年度は胃がん検診の充実のために **内視鏡検査の導入** を予定しております。また、がん相談体制の充実を図り、がん教育についても拡充する予定であります。

2 ホームドアの整備

昨年8月15日に地下鉄銀座線の青山1丁目駅で視覚障害者がホームから転落して亡くなるという痛ましい事故が発生しました。

国交省によりますと、2014年度は視覚障がい者の転落事故が80件で、障がいのない人も含めると3673件起きているとのこと。

ホームドアの設置駅数は、昨年3月末で665駅となっておりますが、全体の6.5%にしかすぎません。ホームドアの設置には1駅当たり数億から十数億円が必要とされるため中々進展しておりません。

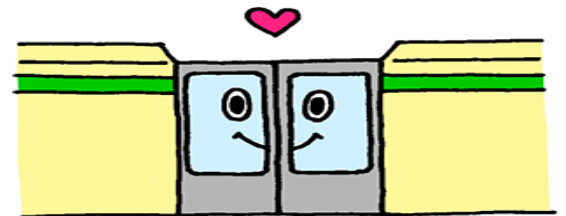
駅ホームでの転落などの痛ましい事故を防ぐために、私は区議会で区内駅でのホームドアの設置促進を強く要望しておりました。

結果、昨年10月に小田急電鉄が、区内4駅にホームドアを2020年度までに整備することを表明しました。

2018年度（下北沢駅 地下2階ホーム）

2019年度（東北沢駅、世田谷代田駅、梅ヶ丘駅）

2020年度（下北沢駅 地下3階ホーム）



©KOMEITO

また、今月2日に京王電鉄が井の頭線の下北沢駅（2021年度）と明大前駅（駅部工事の進捗にあわせ検討）にホームドアを整備することを表明いたしました。

3 保育待機児童対策

世田谷区では就学前人口や共働き世帯の増加で保育園の入園希望者が増加の一途であり、昨年4月時点では1198名の保育待機児童数をだし、その数は全国自治体ワースト1でありました。私は一貫して保育園整備を議会で訴え続け、今年の4月に向けては約1900名の保育定員の拡充する見込みとなりました。



©KOMEITO

また、平成30年入園に向けて約1600人の定員拡大し一刻も早い待機児解消を目指してまいります。

また、保育士の処遇改善のために住宅確保支援の対象拡大を行いました。

4 山形県南陽市の音楽ホールを視察

山形県南陽市文化会館の視察に伺いました。

一昨年9月にオープンしましたこの施設は、山形県産の杉を使った「世界最大の木造コンサートホール」でギネス世界記録の認定を受けておりました。



山形の森からとれた杉材を活用し、国内最先端の耐火木造技術を取り入れ、耐火性と耐震性にも優れております。（防災拠点としての機能有する

大ホールは1403名収容可能で、小ホールでも500名の収容人数)

当初の総事業費は約66億円（その内補助金・交付金は33億円）とのことです。

指定管理者制度ではなく、南陽市が直接運営をしております。

大ホールに入った印象は、まさに、木のあたたかなぬくもり、木のやさしいにおいを感じました。

今後、世田谷区でも本庁舎改築、区民会館の改築も予定されておりますが、世田谷区にもこの空間のイメージを持ったホールができればと思いました。

5 木造住宅密集地域の解消に向けての取り組み

5.1 糸魚川市視察

私は、昨年の12月22日に大火災の被害に遭われた糸魚川市を訪問しました。

約150棟の建物が火災に遭った、現場は、一面戦後の焼け野原のような光景でありました。



まずは、被災された関係者の皆さんにお見舞い申し上げますとともに一刻も早い復旧復興をお祈りする次第であります。

現地でお聞きした話では「当日は南からの強い風が吹いていた。最初の火災発生時には、数件の延焼で済むかと思っただが、火の粉が強風であちこちに飛び火し、

しまいにはどうしようもない状態になってしまった。」「現地は古い木造の商店街や住宅が密集していたエリアであったために消防車が入りきれない地域であった」「消防車が来て、消火栓から取水していたが、大量に水を引き上げたので水圧が下がってしまった」等、火災発生当日のお話をいただきました。

糸魚川市での火災がここまで大規模に拡大した原因は、これからも究明されていくと思います。

振り返って、私たちの住む世田谷にも木造密集地域が多く存在し、大地震時の火災対策は喫緊の課題であります。

現在、不燃化特区制度を使い、2020年に向けて燃えない街づくりを進めておりますが、更にスピードアップさせていく必要性を感じました。

5.2 木密解消に向けての取り組み

不燃化特区地域への取り組みを継続実施（北沢3、4丁目、北沢5丁目、大原1丁目、三宿・太子堂地域、若林、区役所周辺地域等）

建て替え促進助成事業

老朽建物除却

個別訪問及び個別相談会

防災まちづくりフォーラムの実施

